

192

敵は本能寺

日本をなめる無禮な英國

特254

841

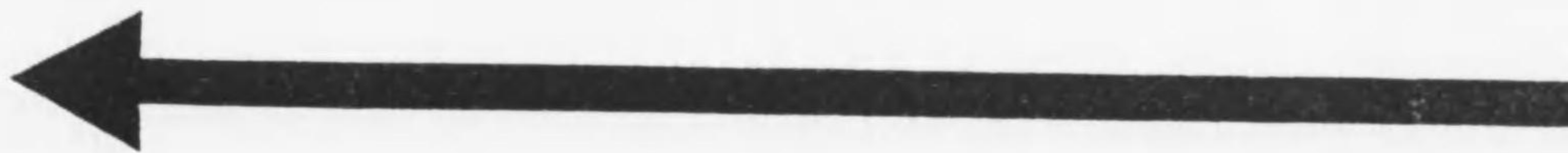
軍事協會編

10

昭和書房版



始



特 254
841

帝國軍事協會編

敵は本能寺

東京朝野新聞社出版部
昭和 書房 版

目次

傲慢無禮の英國を一喝せよ……………前田義雄…(一)

排日侮日は英吉利が本家……………長谷川文人…(二)

東洋平和の攪亂者英國を倒せ……………近江谷榮次…(三)

敵は本能寺

帝國軍事協會編

前田義雄



敵はまさに本能寺にある

今次事變の支那側支援者として、ソヴエット・ロシアあることは今や如何なる口實を以てしても之を隠蔽することの出来ない事實となつて現れた。然し執拗な支那軍閥は、ロシアだけを頼りにしてあれだけの頑強な挑戦を続けるものとは想像出来ない。即ちロシアの外に更に依存するも

のがなくてはならぬ、それは言ふまでもなく英國だ。だにのようなユダヤ系英國人の跳躍だ。打算の國英國は、日本に次ぐ支那への投資國として、支那の時局に關心を持たざるを得ないのであることは専門外交家の説明を待つまでもなく已に業に、自明の理であり現實である。

われ／＼は今、不遜暴戻の支那軍脅威に、國家總動員の努力を拂つて居るが、いづくんぞ識らん眞個の敵はロシアでありそのロシアを、假想の敵國から現實へと轉化せしめたものに英國あることを忘れてはならない。

而して表面英國型の紳士を装ふて居る彼等は、かゝる利害關係からその傳統の打算外交政策の現はれとして、最近頻々として對支援助日本抑壓の舉に出て居ることは、皇國の興隆をこの一戰に懸けて居るわれ／＼日本國民としては、なんとしても黙視することの出来ない侮辱極まる行爲であり同時に、この際兩國の關係を判然たらしめて、確固なる方策を樹立してかゝらねばならぬ。然るに帝國政府は、從來のみならず今日と雖も、その對英態度は「日英親善」の舊態を、堅く墨守して居る。勿論徒らに事を構へんとし相手國の感情を無意義に刺戟することは、固より吾人の取らざる所である。されど、對外的禮讓や國際道徳は、それが一方的では所詮それは禮讓をつ

くす國の衰退を意味する。

一、甜め切つたヒューゲンセン大使事件

即ち、日本の傳統的とも云ふべき溫謐的な對英態度に對して英國はどうであるか、近い例が、去る八月廿六日駐支英國大使ヒューゲツセン氏の負傷事件が如實に證明してゐる。これは周知の如く、南京にあつて、日支事態の動向を注視しつゝあつた駐支英國大使ヒューゲツセン氏は、陸軍武官ラポット・ブレイザー氏、經濟顧問ポール・バツチ氏等とともに廿六日午前八時自動車二臺で南京を出發、上海に向つたが無錫より太倉への途中、午後二時半頃突如所屬不明の飛行機より狙撃され同大使は背部に脊柱をかすめた貫通銃創を受けた事件であつた。この狙撃飛行機といふのは支那機か日本機か未だに判明せないにも拘はらず、英國側は當日直ちに何等の調査もせず日本機が行爲なりとして左の如く自國領事館から發表した。

英國大使は陸軍武官、經濟顧問を同道本日午後二時半ごろ自動車にて南京より上海に向ひつゝありたるところ突如何等警告なく日本飛行機が自動車に向け機銃の掃射を行つた、大使乗込み

の自動車及び大使の荷物を乗せた自動車は直に停車したところ他の一機は自動車に對し爆弾を投下せり、兩自動車ともユニオンジャックを掲げをりたり、その際大使は脊柱に負傷し、上海カントリ・ホスピタルに收容せられたり、係醫師の言によれば脊髄そのものは切斷されをらず、麻痺もなく重傷なるも目下のところ危篤状態に非ず。

こういふ抗議文を日本官憲に突きつけた、何千メートルの上空を飛んで居る何國の飛行機か譯の分らぬ所爲を「日本飛行機」なりと斷定せる英國側の甜め切つた態度は、日本國民の激憤を買はずには措かなかつた。

續いて英本國政府は二十九日ドツツ駐日代理大使をして廣田外相に左の如き傲慢無禮なる抗議書を提出した。

(前略)イギリス政府は深甚なる心痛と憂慮を以てこの悲しむべき事件の報道に接すると共に、茲に貴政府に對し嚴重なる抗議を提出し、併せて本件の遺憾なき救正を要求するものに有之候、支那に在住する外國人を含む非戦闘員はもとより通常の戦闘行為より間接に生ずる已むを得ざる傷害に對し危険を負担せざる可からざるものに有之候も、非戦闘員にする直接又は故意の攻

撃は敵對行為の行はれつゝある地域の内外を問はず絶対に禁止せられ居ることは國際法上最も古くより確立せられたる法則の一に有之候、飛行機と雖も前記法則は他の攻撃手段と同じく空中よりの攻撃にも適用せらるゝ以上この法則の適用より免るゝものに無之候、又本事件を單なる偶發事件と見ることも本件が如何に善意に解するも不注意に基く事及び平和的人民の生命不可侵に對する完全なる無視なることにより容認し難き處に候

本事件は前記の諸事實より明瞭なる如く普通の敵對行為より生ぜる偶發事件にあらず、日本航空機が非戦闘員を相手としつゝあることは彼等に始めより明白なりしに相違無之候、更に自動車に掲揚せられたる旗は小にして認識し能はざりしとの議論ありとするも問題にあらず、たとへ旗が全然なかりし場合に於ても攻撃を正當とする理由は無之候、搭乗者が外國人或は縦ひ外交官なることも又問題と相ならず、要點は搭乗者が非戦闘員たりしことに存する次第に候

飛行機はイギリス大使と知りて攻撃せんとしたるものにあらざることは疑なきも、非戦闘員を攻撃する意志を有したるは明かにしてこの事實のみを以て不法行為を構成するに十分に有之候更に本件に於ては大使は支那軍隊も居らず敵對行為も行はれ居らざりし地域を疾走中なりしも

のなることに留意すること然るべく事實支那兵は遭難現場より一時間程走れる後始めて遭遇せる次第に候

イギリス政府は本事件は更に廣大なる意義を有することをこの機會において強調せざるを得ずと存じ候、本事件は無差別なる空中掃射より豫期せらるべき結果の顯著なる一例にて右の如き常にこれを命じ來れる戦闘行為遂行中における戦闘員非戦闘員の區別を没却する非合法的非人道的慣行の結果に外ならず候、本件の場合に於ては當事國の何れも戦争の布告を爲さず又戰時状態の存在を明示的に認めたる事なき状態にして、右事實は本件事故の許すべからざるものなることを益々明かにするものに有之候よつてイギリス政府は次の要求をなす次第に候

- 一、日本政府よりイギリス政府に爲さるべき正式陳謝
 - 二、攻撃責任者の適當なる處罰
 - 三、斯の如き事故の再發を防止する爲め必要なる措置をとるべき旨の日本當局の保障
- 血迷つたといはんか日本を眼中に置かぬといはふか、かういふ圖々しい抗議書をまた外務省に持ち込んだ、之に對し廣田外相は目下現地に於いて慎重調査中であるから、事實報告に接し次第

何分の回答をなす旨を答へた。

三、何ぞ識らんや支那側の所爲

右に對する帝國政府の回答については其の後上海に於いて海軍出先官憲が實地調査を進めると共に、海軍外務兩省に於て協議を進めてゐたところ、やうやくに至り一應の回答方針を決定したので九月六日院内閣議の承認を得て同日夕刻廣田外相より在京英國大使クレイギー氏に回答覺書を送附英國政府への通達方を申入れた、しかしして七日午前十一時外務省から發表された右帝國政府の回答左の如きものであつた。

以書翰啓上致候、陳者八月九日付ドッツ代理大使發本大臣宛第一二五號書翰をもつて在支英國大使サー・ヒューナツブル・ヒューゲツセン氏の負傷事件に關し御申越の趣聞悉致候、本事件發生の報に接するや帝國政府はこれを重大視し不取敢本大臣並に在英及び在支帝國大使より貴國政府及びナツチブル・ヒューゲツセン大使に對し深厚なる見舞を申入れるとともに直に關係出先官憲をして鋭意調査を進めしめたる次第なる處今日迄我方に於て調査し得たる結果は本件が

我方飛行機の行爲なることを断定すべき材料これなきも、帝國政府は更に慎重を期する爲、尙出先をして残されたる調査の手段を取らしめつつある次第に有之候、事情右の如く本件に對する責任が我方にありや否やは未だ断定し得ざる所なるも當日太倉方面において日支間に現實に戰鬪行はれわたる結果としてヒューゲツセン大佐の遭難を見たるは日英兩國の傳統的親善關係に鑑み帝國政府の深く遺憾とする所に有之候

なほ帝國軍隊においては非戦闘員に對し損害を與へざるやう常に十分の注意をなしをるところ今後萬一わが方の手によりこの種不幸なる事件の發生を見るが如きことは帝國政府の最も希望せざる所なるを以て、帝國政府に於ては出先官憲に對し慎重行動方重ねて訓令致し置候、就ては貴方に於ても今後危險區域通過の際には事前に通報する等此の種事件再發防止のため必要な措置を執られ我方の努力に協力せられんことを切望致し候

右不取敢回答旁本大臣はこゝに重ねて閣下に向つて敬意を表し候 敬 具

この帝國政府の回答に對して執拗な英國政府筋では満足せず、今尙是非硬軟の論を闘はして居ると傳へられて居る。

四、軟弱外交に英國が増長

右外交文書によつて知らるゝ如く、第三國官憲が戰鬪區域を通行する場合には豫め兩交戰國に對して通報せなければならぬのである。然るに英國側はその通報をなさずして、出先官吏が負傷したりとて何等抗議を申込む権利がない筈である。況んや碌に調査もせず何等の證據もなくして、一方的に加害者を決定し日本を侮辱したる態度は日本國民の感情上から言つても、外交儀禮から言つても、許容すべからざる不遜行爲である。

然るにわが外務當局は、事件當時英國側の一小役人を御見舞ひ申上げ、再度の逆捻ちに低身平頭の態度を取り、剩へ、その回答なるものは釋明と陳謝であることは、何たる卑窟であらうか、十數年來日本の外交が屈辱退嬰に終始し國威を毀損することの上なき軟弱そのものであることは國民の久しく憤慨せるところである。そして軍部によつて建設された國權を、その軟弱外交によつて後から後からと、破壊されて居るのである、抑々現下の外交なるものは口舌の戰爭であるそして國際儀禮は精神的協盟國に非る限り外交戰の手段たるに過ぎない。然るに今日の日英兩國

は何と辯護しても、敵對關係にあるのである。日本が親善を唱へるほど、英國を増長せしむることとなる現狀に於て、この踏んだり蹴つたりの英國側の仕打ちに、何が故にわが外務當局が屈辱を忍ばなければならぬのであるか、吾人の極めて不可解とする所である。

爾來日本は英國によつて何物を得たるか、日英同盟は英國の必要のためであつた。殊に歐洲大戰當時は、獨逸の猛襲に戸惑へる濠洲在留英國民は、日本艦隊が保護して地中海邊まで送つて貰つた恩義を忘れ、強ひて日本に事を構へんとする今回の大使負傷事件は、支那軍以上わが皇軍を侮辱するものとして膺懲を加へなければならぬ立場に、日本は今置かれてゐる。

右外務當局の陳謝的回答を英國側に與へたその日次の電報が歐洲から發せられた。

【ローマ六日發同盟】 去る八月卅一日ソヴェート汽船テイミリヤゼフ號が、アフリカ北岸アルヅエー東方沖合で國籍不明の潜水艦から水雷射撃を受けて沈没、次いで翌九月一日には同じくブラゴエ號がエーゲ海で撃沈された事件が発生したが、ローマ駐劄ソヴェート代理大使ヘルフアンド氏は本國政府の名を受け六日午後キジ宮にチアノ外相を訪問して通牒を手交、右はイタリー潜水艦の所爲なりとして嚴重抗議を行ふとともに損害賠償及び責任者の處刑を要求した。

これに對しチアノ外相はソヴェート汽船の撃沈事件はイタリーの全然關知せざる所なりとして即座にソヴェート政府の抗議を一蹴した。右ソヴェート政府の抗議はイタリー政府官邊では頗る重要視し殊に今回の抗議が恰も英佛兩國政府の提唱にかゝる地中海沿岸國會議を前に行はれたことはソヴェートの策動として一般の注目を惹いてゐる。

右電文に明示せる如くロシアの汽船が二隻までも撃沈されたのに對して伊太利政府は日本のやうに十日以上も調査に日を費して居らず、即座にロシアの抗議を一蹴して居る。

今日の國際關係に於て「甜められる」といふことは、十萬の將士を犠牲にするよりも國家的損害が大なるものである。日本が英國によつて甜められて居る——それは前述の如くわが外交當局の腰が抜けて居るがために——支那側にも甜められ、ロシアにも甜められ、片ツ端から甜め盡されてゐる。即ち英國に甜められたその日、伊太利に蹴飛ばされたロシアは翻つて日本漁船を總甜めにして居る左の電報をわれ／＼は手にした。

【清津發】 朝鮮總督警備船朝風丸の不法拿捕後、豆滿江方面に出漁中の漁船は續々引揚げてゐるが、その後もなほ漁船がソ聯艦船の襲撃を受けてゐる。即ち六日夕豆滿江南沖合で林兼會社

の鱈運搬船南進丸は漁獲物を満載したまゝ露國艦船に拿捕され北方に曳航された。またこれと相前後して藤京産業會社の巾著網母船第一日吉丸(三五トン)は漁撈中潮流のため北方に流されたところ露國艦船に發見され巾著網と傳馬船を海中に残したまゝ西水路に歸つた巾著網の損害一萬數千圓。

汽船二隻の撃沈と小役人のかすり傷とはどちらの事件が重大であるかは三歳の童子も判断に苦しまざる所である。日本は今東亞黎明の顯現を期して眞劍勝負をやつて居るのである。その戰場へ無用の一小役人がうろつき廻つて微傷をしたからとて閑議だ回答だとは一體何事であらうか、日本も、出先小役人から即座に一蹴させて然るべきものである。日本に全副のモラルサポートを捧げて居る伊太利の態度を、そして日本外交のだらしなさゝを比較して吾人は、日本外交の構に大なる缺陷あるか、然らずんば幾千のわが外交文官中一人の人物なきを想ふのである。かるが故に、緊張し切つた戰場をほつき廻つて、恰も火事場の野次馬のやうに、あつちへ行つては叱られこつちへ出しやばつてはこづき廻されるのも當然であらう。

わが外務當局の英國に對して翻然鉞先を磨がいて貫はねばならぬ秋である。

大體英國民は彼等の民族的優越感に陶醉して、わが大和民族を今尙劣等國民扱いして來て居るのが抑もわれ等の癪だ。然るに英國民の偉いのは道德的學問的な人間性でなくて、人の禪で角力を取るこゝとゝ火事泥を働く野獸性である。そして「づるい」ことでは世界第一の民族である。

排日侮日は英吉利が本家

長谷川文人

一、英國先づ日英親善を抛棄

十五年前のワシントン會議で日英同盟が廢棄され、代つて日、英、米、佛の四國條約が締結された。日英同盟にはかねて米國が反對だつた。即ち、血は水よりも濃かるべき二大英語國民の方たる英國が、日本と攻守同盟を結んでゐるといふことが米國としては氣に喰はないのである。他方、日英同盟あるがために、日米の友好關係も面白くなかつた。これはある意味に於て日本にとつては高價なる犠牲であつた。しかし日本は如何なる犠牲を拂ふとも永く日英同盟の忠實なる盟約者たらんことを期したのであるが、英國殊にその自治領においては、米國に對する關係から日英同盟に對する反對論がますます強くなつて、遂に日英同盟は葬り去られることとなつたわけである。その時（一九二一年十二月十日ワシントン會議總會の席上）英國全權バルフォアの述べた

訣別の挨拶の一節に、

「過去二十年間の光輝ある歴史を有する日英同盟が、今やいよいよ終了を見んとするにあたり、恰も汽車中に於て初めて知合となり、數時間旅行を共にしたる二人の乗客が、相別るゝに臨み互に帽子を取りて一禮するが如きは吾等の忍び得るところではない。」

とあつた。だがその後日英關係は自然に冷却し次第に熱意を失つた。殘燭の火のやうな「日英同盟復活論が」いよいよ英國政界の一部から消え去つて、最近には、英國外交の「指標として」日英親善拋棄論」が放送されるやうになつてゐたのだ。そして今度の日支事變では、日英關係は日英同盟の廢棄以來かつて見ないほどの緊張を示し、なほますます悪化しつゝあるやうである。この事態は無論日支の紛争に支那側が敗戦した結果齎らされたものであるが、しかし、東亞に於ける、否世界に於ける日英兩國の利害が、根本的に一致しないことから來る運命的な相剋が、兩國關係の調整をより困難ならしめてゐる深刻な原因であることを見逃がすわけにはゆかぬ。

二、世界到る處で日本人日本品を排斥

領土狭く資源に乏しい日本が、その國民の發展力を外に求めんとするのは自然の要求であるが世界各地に跨る英國の各領土では至るところ日本人を排斥し、日本品の輸入を防壓しつゝある。しかし英國諸植民地に住む土着民は、安價にして良質なる日本品を歓迎してゐるのに、英國政府は少數の生産者を保護するために、多數消費者の利益を犠牲にせんとする經濟政策を實行しつゝあるのだ。即ち英國の商工業者が、日本品の脅威を誇大に宣傳して、世界中に日本品排斥運動を起させてゐるのは周知の事實であつて、英本國をはじめ、その屬領、自治領等は、いづれも關稅引上、爲替補償稅または割當制度等によつて日本品の防壓に大重の態であるのだ。

かくて日本國民の活路として殘されたアジア大陸に於て、日本はそこに、領土的野心を有せず世界各地におけると同様ひたすら商權の擴張を求めてゐるに過ぎないのであるが、その最重要市場たる支那に排日貨運動の起れるを好機として、英國は日本の對支發展を妨害せんとするの態度を示した。滿洲國の獨立に際し、聯盟の最有力なる一員たる英國は自ら先頭に立つて、聯盟に於て、滿洲國の獨立不承認並に日本品ボイコットの合理化を決議したが、それらが、何んで日本の感情を害せず措くであらう。

三、日支の特殊關係を英國が抹殺した

ワシントン會議に於て日英同盟が廢棄されたと同時に、米國が日本の東亞に於ける特殊地位を承認したいはゆる石井ランシング協定も廢棄せられた。その結果日支の地理的經濟的特殊關係が抹殺され、日本は支那に於て列國と同一の水準の下に立たされることゝなつた。そして同會議で成立した九國條約は、右日支の新關係を條約上に規律し、支那に於ける列國勢力の均衡を保障した。即ち九國條約における門戶開放、機會均等の主義は、日本の特殊地位を埒外に置いたものであるがために、日本は該條約に不満であり、その死文化を主張しつゝあるのだ。アジア大陸への日本民族の發展の能否は、日本にとつては死活の問題であるのに、九國條約は何等この日本の要求を充たして居らず、加ふるに、滿洲國獨立以後における極東の新事態に對しては、同條約は一層適合性を失つてしまつてゐる。

もとより締約國は、條約尊守の義務があるが、同時に一國は、その國の利益を侵害する外部の壓力に對して常に自衛の權利を有するのである。支那事變をもつて自衛行動なりとする日本側の

見解に對して、各國側に異論ありとするも、それは已むを得ない。日本の行動は、どこまでも支那の抗日政策に對抗する自衛的措置でしかあり得ないからである。

四、米國を誘致してブラッセル會議開催

しかも英國は米國と共に、九國條約に基くブラッセル會議の開催に奔走努力したが、その眞意は想像するに難くない。即ち假りに北支に於て黄河以北の廣大な地域に南京政府と全く分離した獨立の自治政權が生れたとする。そして、その政權が日滿兩國と共に、共產主義の侵入に對して共同防衛の戦線を張り、また經濟的にも日滿兩國と提携せんとするものだとする、また上海附近に於て、日本がその占領區域に對し、特殊優越な地位を獲得したりとすれば、列國は當然日本の下風に立たざるを得なくなるであらうが、もとより列國はかゝる地位に甘んずるはずがない。そこで列國はさる事態の出現しない以前に於て、それを防止するために九國條約を發動せしめたのだ。即ち列國は九國條約に據つて日本の對支優越的地歩の獲得を抑へんことを企圖しつゝあるのである。

しかるに、開會中のブラッセル會議は、開會前から早くもその前途を悲觀されてゐたのである。日獨が参加を拒絶したこと、日本が強硬態度をもつて會議の決定すべき調停條件を一蹴するであらうとの説、及び九國條約が制裁規定を缺ぐこと等が、その理由として挙げられてゐた。

ブラッセル會議の産婆役をつとめた英國は、初め九國條約會議の招集に關して、聯盟における濠洲代表をして濶踏みをさせた。そして米國の同意を取りつけ、ベルギーを説伏してブラッセル會議を主催せしめたのであるが、英も米も共に表面に立つことを避けたといふ一事は既にブラッセル會議の前途を卜するに足るものがある。會議の如何なる決定といへども、それが第三國介入の結果によるものである限り、日本は主義としてこれを承認しないであらうから、事態の解決は結局日支の直接交渉によるの他なく、ブラッセル會議の任務は單にそれへの誘導に過ぎまいと思はれるのである。

五、秋風落莫の在支英國權益

一九二七年支那に起つた猛烈な排英運動のために、英國は遂にその一部の權益を抛棄せざるを

得なくなつた。そして英國は辛うじて排英運動の鋒先が英國自身に向ふのを避けたのであつた。以來英國の對支政策の眼目は、その現在の地位を保持するにあつて、進んで新たな權益獲得を志すものではなかつた。だが、この最も保守的な英國の在支權益保護の政策も、上海戦に於ては更に一步の退却を餘儀なくされる破目に陥つた。事變以來英國がその居留民と權益保護のために香港の駐屯部隊を上海に増遣し、また艦隊を附近に集中して警備にあたる一方に於て、他の列國を誘ふて戦亂終熄のためにその努力を傾注して來たのは、一にこの「退却」を喰ひ止めんがためであつた。しかも英國の意に反した事態の頻發を見るに及んで、英國は俄然その態度を改め、日本を國際的孤立に陥れ、日本に道德的壓迫を加ふべくあらゆる策動を敢へてした支那の聯盟提訴は支那独自の行動であつたにせよ、その後聯盟に於ける日本糾弾の決議は完全なる英支の合作であり、反日聯盟諸國の支持の下に行はれたものであつた。

六、英支合作で日本を糾弾

即ち日本の参加せざる聯盟の會議に於て、支那代表をして勝手なる放言を爲さしめ、そして東

亞の事態に關して正確なる認識をもたない聯盟諸國をして、いたづらに附和雷同せしめたといふまでのことである。かうなれば、支那及び英國にとつては思ふ盡にはまつたもの、南京、廣東、及び蘇州に對するわが爆撃が、數千の非戦闘員を殺戮したといふやうなデマでさへ、事實として信用せられ、猛烈な對日ボイコットが英國初め世界各國に捲き起つたわけだ。

茲まで來ては、支那に於ける日英の利害を調整することは至難の業である。それは經濟上に限られた範圍の問題であるにしても、もはや政治問題との關聯なしには解決出來がたい事態に立ちいたつてゐるからである。英國は執拗に米國を勧誘し、かつ佛、ソ兩國をも仲間に入れて、日本をジュネーヴの國際舞臺で非難し、更にブラッセルに拉し來つて缺席裁判に附したのである。かかる重大なる侮辱が、はたして日本國民の忍び得るところであらうか。

ブラッセル會議が日本に對して何等の制裁をも加へ得ないことは明白で、結局は微温的な決議位でお茶を濁すことゝなるであらうが、さうだとしたら同會議は完全に失敗である。しかしてその失敗の責任が主動者たる英國にあること勿論である。

七、支那の長期抗戦は英國の援助

英國は香港を通じて飛行機その他の武器を大量に支那に供給しつゝあるのみならず、各國武器の香港通過に對して便宜を與へてゐるが、これは支那側の長期抗戦を援助する結果となり、かつ英國がスペインに對して熱心に唱導しつゝあるその不干渉政策と矛盾するものだ。スペインに對すると支那に對するとは、英國として關心の程度を異にすること勿論であらうけれども、英國にして、もしもスペイン兩政權に對すると同様、比較的公正な態度を日支兩國に對しても持し得たならば、事態を今日ほどに悪化せず、日英兩國の摩擦を漸次拂拭し得たはずである。

英國の對支援助がますます露骨となり、英國民の對日感情が悪化しつゝある折柄、これを受け、た日本の國民的感情が、最近著しく反英的に傾いて來たことは事實である。すでに英國首相チェンバレン氏は、ルーズベルト米大統領のシカゴ演説を支持せる聲明を發して、日本誹謗の態度を明示し、英國勞働黨及び勞働諸國體は、對日ポイコツトを決議して、政府にこれが實行を迫つてゐる。かゝる情勢を前にして昨今日本國內に英國打倒論が擡頭しつゝあることは、何等不可思議

なる事象でなく、むしろ當然のことである。所詮は起るべくして起つたものであるに過ぎない。即ち日本に於けるこの種の論議は、英國に於ける大げさなる反日運動に比較して、あまりにもまた消極的であり、控目であることに、日本は世界の注意を喚起すべきだ。

東洋平和の攪亂者英國を倒せ 近江谷榮次

筆者近江谷翁（當年六十四歳）は往年中央俱樂部所屬秋田縣選出代議士として、内田良平、杉山茂丸、頭山滿氏と共に伊藤公を鞭撻して日韓併合を決行せしめた在野の代表的志士である。もと、秋田銀行、四十八銀行、秋田縣農工銀行頭取として東北金融界の重鎮たりしが、齡三十にして、中央政界に進出を試み、日韓併合を手初めに電燈料の半減、航路補助等幾多の重要國策を實現せしめ明治四十三年の萬國議員會議に出席して皇國日本の存在を世界の爲政治家に確認せしめた老政客で、數十年來英國打倒を叫び續けて來た仁である。編者一日翁を訪ね、談、戰局に及ぶ、今も尙混迷のわが時局收拾の道は、翁のイデオロギー外に出づるなく、外交を度外視して國策樹たざるを惟ふ、外交については世論支那、ロシアを言ふされど敵は本能寺にありと悟さる。左の論文は數年前の起草に成るが、方今言論界の腐敗を痛感せる翁は、斷乎として自由

主義、營利本位の新聞紙上發表を峻拒さるものなりと言ふ。當帝國軍事協會の趣旨に賛助せられ、その發表を諾せらる、大方識者の資料たるを得ればまた幸ひなるべしと想ふ。（編者）

(一)

老獺の國、搾取の國、我同盟を破棄せるの國、畢竟英國は信するに足らず、之を過去の歴史に徴せよ、之を現在の事實に照らせよ、リットンの如きは始めより滿洲國不承認の結論を秘めて來れるなり、名を慎重の調査に藉りて長日月に涉り努めて其缺點を探るに汲々たりしなり。

即ち滿洲を國際管理に移して我國を牽制し、英國の勢力を維持する其立案を得んと欲つしてなり、漫然彼を迎えたる我の不明は言はずもがな、執拗なる英國人の性格は外交術の堪能なると共に、東亞の城廓を保持せんと欲つして聯盟に臨みしなり、聯盟は其七分の威力を英國に占められつゝありとせば、英國の國際聯盟と言ふも不可なし、而して何事も世界一、而も國際政局上絶大の力を有せりと自負する稚氣滿々の米國を逆用して、我國に直面せしめ、之を今日に紛糾せしめ

たり、英國外交の成功と言ふを適當とせん。

我國のため其分割を免れたる支那は我に感謝せずして聯盟に阿諛と感銘しつゝあり、其愚や及ぶべからざるも恐らくは南京政府の内心之を諒知せん、其共産軍に背後を冒され侵略せられつゝあり、滿身之れ創痕、國破れて山河在り憫むべきは支那の國民なり。

(11)

由來英國の巧妙なる外交は、表面深き親しみを我皇室に送りて之を基調となせるが如し、而して維新以來の我外交當局者は英國に懐柔せられ、之れに心酔せるもの十中の八九に居る。獨り吾人と共に印度の亡命客を英國官憲に引渡さざりし一人の老外交官を想望するのみ。

然れども這般來朝せる英國の文豪バーナード・ショウ豫言して曰く「イギリスはインドよりの手を退かざる可からざるの時期到るべし」と、前年ガンヂー以下十萬の革命志士牢獄に投ぜられたり。ガンヂー等の製鹽所を占領するを第一の目的とせるを見て、如何に印度人の鹽を得るに苦心せるかを察知するの時、人道上同情せざらんと欲するも得ざる也、然れどもおそるべきは此自

覺ある人物が英國に輩出するなり、之を指導するにあり、非常時日本には未だ一人のセシルローツナキとは全く反比例なり。

個人として英國人の尊敬に値するは誰れか之を否認せん、彼れが肺患の身を以て南亞の命鏝に従事し、以て祖國の財政に資せる其意氣、其遠見を採る可し、然れども今日の英國は恰も夕陽の西に没し去るが如く尾大振はず、遂に一木のよく大厦を支ふる能はざるの運命に近づきつゝあるを觀取するに足れり、我追従外交の絶對的に聯盟を脱退せず、否脱退し能はざるを確認せる英國は其豫期に反せるに狼狽せり。

能く泳ぐ者は溺ると、只だ天意なるを奈何せん、我主張の正義に出發して一點私心なきが故なり、王道を布き樂土を滿蒙に創造するは、滿洲開闢以來の政治に對し、天下誰れか之を妨げん哉英國が東洋に蟠居して百千歳の下に其搾取を永續せんとせば、人類の自由と其幸福を無視するものにして非人道の行爲は天人之を許さざればなり、此仁義の大道に基き滿洲國を承認せる我國の主張に對し權謀を弄するものありとせば、英國との衝突も亦避く可きにあらざる也、矧んや經濟封鎖に於てをや。

(三)

果然、英國は對日經濟の斷交を露骨に表白し來れり、昭和八年の二月二十七日サイモン外相は「日本軍の行動は聯盟に違反するもの也」と、また英國議會に於て労働黨首領ランスベリーは「日本に對するクレヂット、金融、棉花、其他苟くも日本を助くる一切の商品に對し輸出禁止を斷行すべし」と要求せり、自由黨首領サミュエルも亦「余は英國民の意思は日本に對する武器の供給を拒絶するのみならず他のあらゆる種類の援助特に起債乃至クレヂットの許容に關する援助を中止するにありと確信するもの也」と、かくの如くに英國政界の重要地位にある代表者によりて彼國の輿論を測定するを得べし。

然るに我兩院議員にして一人の之に應酬する者を聞かず、予は往年若槻全權のロンドン會議に赴くをよろこばずして敢然之れに反對せるは如此英國に翻弄せらるゝを恐れてなり。蓋し英國傳統的の精神にして國際信義を無視する多くの歴史を有するは英國政府が尋常の茶飯事とするところなり。我國に對する從來の心事に顧み其の眞意を疑ふの餘地なし。

顧みれば、予明治四十三年夏萬國議員會議に出席して深憂を懷けり、會同者六十八ヶ國の代表にして東洋に在りて我國の外獨り土耳其の議員あるのみ、歸來長谷場議長に對して將來不参加を注意せり、即ち會議は歐米人の獨占場にして、凡そ會議の原則として多數決に従はざるを得ざれば、其盲従の義務を負担すべき場合を想像するの時、他日我國家の重大事に遭遇するに際し、辭禮を第一義とする我外交官の頼りなきを痛感するに當り、之れに羈束せらるゝの不利なるを豫感すれば也、果せるかな前年の國際聯盟會議の失態に該當するに至れり、當時の我外交官の活動に對する月旦は之を追想するを避くるも、却て佛國大使館武官の白井大佐（現陸軍豫備中將）の存在を桂内閣々員の列座に語りしを記憶す。

予は獨逸に到りて軍人の萬能にして工業的國家總動員の現状を目撃し世界戰爭の再び伯林より發生す可きを斷じ、之を當路に警告せり、早稻田大學講堂に於ても之を説けり、其英國を訪ふの時、我關稅改正に對する英國民間の代表機關たる各地商業會議所の舉げて之れに反對せる新聞記事を芳澤書記官（現貴族院議員）より示されたる時、予は甚だしく昂奮せざるを得ざりき、畏友山座參事官疾み且つ濃霧滿都に罩め其朗かならざる英京にあるを不快として翌朝退京するに至れ

り。
 當時我關稅の改正に對しては、其露國の同盟國たる佛國及其友邦たる白耳義の國論は、我國戰後の財政に同情して之を肯定せるを確めたり、但し英國の同意を氣遣ふが如くなりき、英國が我國の強國たるを喜ばざるの色ありしは日露戰後最も然らざるを得ず、予の英國を好まざるは之れに直面せるに因りて深し。

(四)

歸朝此一事を東朝に語りて多少の物議を醸せるが如し。英國の狡智は能く誇大妄想國を欺き之を翻弄せり。世界戰爭の起るや、カイゼルの英國の之れに参加せざるを信じたるに乗じ其最後迄之を操縦して其獨逸の當然犯す可き運命に在る白耳義の中立地帯を冒せる其瞬間に参加を通告し國交斷絶を宣言せり、英國大使は即時旗を捲き行季は已に列車中に投ぜるを傳ふ。正に電光石火の術脱鬼の勢以てせり他山の石となすべしか。

次いで我國を参加せしめたるは、日英同盟の誼に依らしめたり、素より之に因るは義の正に然

る可きところ何の打算か之れあらん、當時日獨提携を高唱せる親獨政治家後藤伯の如きありしと雖も、我國由來仁義を以て立てり、成敗利鈍を顧みざる也。もし其事ありしならんか今時の滿洲國承認の如きは何の意義をなさざるに至るべかりし也、我公明正大の態度と正義の觀念に於て世界的孤立を以て名譽となすの大和民族の氣魄を表徴せるものなり。

英國の懇請して止まざりしは勿論なりしも我廟議の参加に決して英國大使マクドナルドに通告せるの時、大使冷然として曰く、参加可なり、然れども青島還附を條件とするにあらざれば、義戰の意義を失ふと、廟堂呆然たりしも已に参加を聲明せる以上駟馬も亦た及ばず英國の左右するところとなり。

即ち逆に青島を還附するに至れり、其後我國の濟南に出兵するを思ふの時、今日張學良の北平に據して我を妨ぐるの時其強固なる後方勤務の青島及濟南のよつて力ある看取して豈に感慨なきを得んや。

我外交の拙や實に枚擧に遑あらざるなり、要するに自主獨立の觀念乏しきに因る、我の南洋にエムデンを驅逐し、地中海に掃海し千辛萬苦の植民地を擁護し同盟以上の義務を果たせるに拘は

らず後年米國を操縦するの具に供せんがため平然として同盟の精神を破棄せり、其信義に乏しきは此一事を以て明々白々たり、何の親しむべきものあらんや、また我を蔑視して經濟的威喝を試みんとす、誠に噴飯に耐えざるなり、騙るものは久しからず、英たるもの先ず其脚下に顧照せよ。

蓋し我外交の刷新を叫ぶは我國民の輿論にして、其外交官出身の松岡全權の此言あるは、人を實感しての事なるべく吾人の常に提唱せる處なり、そは平生に屬す、老西郷副鳴滄海勝海舟等の人傑を理想して野の遺賢を求めんか、必しも外交官的人物の拂底にはあらず、却つて此種異彩を發見す可し、霞ヶ關亦潜在の士あるべし、其逸足に虛榮的富豪の子女を配するよりは寧ろ日本婦人の傑出せるを附して活躍せしむるに如かず、附屬威信なし焉んぞ大道に測歩するを得ん。國家は須らく所要の經費を與へて國際上の不便を醫やすべきなり、今回小國に諒解を求むるの機會ありしを想像す、必ずしも不純を強ふるにあらず、平生の親交は人情の機微に觸るゝと共に國際上の產業的交渉も其の主なる重點たるを感す、即ち弱者を愛し挫強扶弱の我國民的精神の發露は彼等をして化石たらしめざるの用意あるを要す、我に大義あり之れを宣明し、之れを暢達す

るは我外交官の任務にあらずや、四方に使用して君命を辱しめずと、清貧洗ふが如き故小村侯の如きは、國土的獻身的態度にして物質を主體として老後逸樂の用地をモットーとする外交官氣質の清算せらるゝ時期たるを自覺して可也。

(五)

八門遁甲の術を體得せる老帝國の外交により其擗取によりて、永く窘められたる亞細亞の諸民族は、速かに英國を驅逐するにあざれば其平和と幸福は享受するを得ざるなり、否眞の世界の平和は望む能はざる也。

天なるかな命なる哉、英國は今我國の聯盟脱退に依りて一大破綻を來たし、英國朝野の周章狼狽の其沈着なる可き個性を紊だして頗る其心情を暴露するに至れり。

彼は日米の衝突を萬一せるもルーズベルト新大統領の政策は、其無謀なるを常識的に認識す可く米國民中或は軍令部首腦に其人なきにあざれば、英國の煽動に乗ぜられるべきにあざざる可し。

ソヴェート・ロシアの自重するも亦然り、英國の走狗となりて其搾取に甘んぜるは支那國民政府たるべきも、支那人を擧げて然るにはあらざるべければ、英國は遂に墓穴を掘りて世界に孤立し自然に東洋より解消するに至る可き也。

只其墮力と其人物の突發するあり、其頽勢の挽回に死力を注ぐべく、更らに其舊交を温むるを名として其猿臂を我雲際に伸はし之が策動するを豫期せざるを得ず、吾人は我國民否亞細亞民族百年の禍根たるを痛感して寧ろ之を契機として彼の欲する斷交を甘受し敢然として之を驅逐清算す可きなり。

吾人少時日清戦後の我海軍の威海衛に逆襲を試みるに當り、英國艦隊の夜中發砲し之を遮掩して之を妨害し、我將士をして激憤せしめたる事實の念頭を去らず、由來世界的横暴を逞ふせるに徴し、我國是と兩立せざるを豫感し、更らに二十四年前の訪英の感想に及び終りにリットン報告に立脚して、其主張の一步を枉げずして我を苦しめ遂に豫定の計畫を續けて我國を孤立せしむ、即ち事實上我に宣戦を布告せると言ふも可也。

或は頻々として表面的に或は隱微的に我を苦しむるの舉に出でん、即ち滿洲國不承認は中華民

國にあらずして英國なり、日滿共同の敵は英國也、英國々論の日英經濟の斷交を聲明せるを以て之を立證す可く、敵は本能寺に在り英國打倒を一貫して今日に至れる吾人の政治意見は、遺憾ながら現在に適中せるを寧ろ老大國のために悲しむものなり、遮莫、東洋の平和民族の幸福は英國を驅逐するを以て前提となす可き也。(昭和八年三月朔、滿洲建國記念日)

昭和十二年十一月八日 印刷
昭和十二年十一月十日 發行

【敵は本能寺】
定價 十錢(送料三錢)

不許複製

(全國主要驛
賣店・書店に
て發賣)

著者	帝國軍事協會編
發行人	東京市芝區新橋四ノ四六 鈴木徹郎
印刷所	東京市芝區新橋三ノ二〇 更生社印刷所
發行所	東京市芝區新橋四ノ四六 東京朝野新聞出版部
發賣所	東京市芝區新橋四ノ四六 昭和書房

大取次
東京鐵道局公認(鐵道保養會・鐵道公濟會)
(京阪神)新正堂書店(名古屋)南進堂書店
(宇都宮)淺野屋書店(静岡)吉見書店

終

